

誌面 プレイバック

“大阪の元気人”がいっぱい!

『FINEおおさか』は、各方面で活躍する元気な人々を紹介し、そのパワーを読者のみなさんにも感じていただく冊子でもありました。

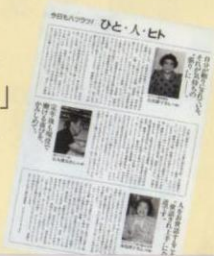
1990(平成2)年のプレ創刊号には「今日もハツラツ! ひと・人・ヒト」のコーナーで老人大学講座一期生で、地域福祉の貢献者に贈られる「キワニス賞」を受賞された石黒静子さん(当時71歳)、ボランティア労力銀行を主宰した大阪の福祉の先人である水島照子さん(当時70歳)、高齢者だけの会社「マイスター60」の社員の石丸健治さん(当時61歳)の3人のシニアを紹介。

また、プレ創刊号から1996(平成8年)18号までは「FINEインタビュー」と題して著名人へのインタビュー記事も連載しました。

ご登場いただいたのは、西川ヘレン、角淳一、岸昌、高島忠夫、寿美花代、豊島美雪、正司歌江、渋谷天外、時実新子、加藤俊彦、上沼恵美子、東多江子、桂南光、馬場章夫、藤山直美、原田伸郎、遥洋子、古屋和雄、桂あやめ、大村崑のみなさん方。

1995(平成7)年15号から翌年の18号までと、2002(平成14)年43号から現在までは「おおさか元気人」で、趣味やスポーツ、文化活動などさまざまな分野で活躍する大阪府民のみなさんをご紹介します。

この他、「リレーインタビュー」や「サークル紹介」のコーナーなどにも、たくさんの方々にご登場いただきました。



上/プレ創刊号の誌面 中/2号の著名人インタビュー
下/66号「おおさか元気人」

児童環境づくりの推進

次世代を担う子どもたちが、夢と希望にあふれ、安心と喜びをもって暮らせるよう、社会全体で子育てを応援する環境の整備に努めています。

子どもの豊かな遊びと文化創造の拠点 『大型児童館ビッグバン』を運営

子どもたちが想像力を駆使してさまざまな遊びを体験できる空間として、大阪府が1999(平成11)年6月にオープンさせたのが、「大型児童館ビッグバン」。

「遊び」をテーマに「子どもの豊かな遊びと文化創造の中核拠点」として整備されたビッグバンの管理・運営を行っています。「宇宙戦艦ヤマト」『銀河鉄道999』などでおなじみの漫

画家・松本零土さんを館長に迎えた夢があふれる施設です。

地上5階、地

下1階建て、延

床面積約1万㎡

の館内は、松本

零土さんが創作

した「宇宙から

の訪問者「ベアル」と「メロウ」の壮大な旅物

語“に沿った、ストーリー性のある非日常空間

を演出。車いすでの移動が容易なスロープ、段

差のない構造や、立体触地図、点字等によるサ

インなど、すべての子どもたちになじみやすい福祉

設備を整えたバリアフリー構造です。本館1階



23号の誌面

のエントランスフロアから、2階、3階のフロアーにわたる段状の大空間、その上は着陸した宇宙船をイメージした4階部分で構成され、隣には半円の球形劇場(こども劇場)、そして地上高53メートルの遊具の塔がそびえ立っています。

1997(平成9)年23号の『FINEおおさか』誌面では、ビッグバンのオープンに先駆けて開催された第1回「子どもフォーラム」の様子を紹介し、ビッグバンの構想や、ビッグバンでの遊びについて、子ども委員の意見交換の内容などを伝え、ビッグバンへの期待感を膨らませました。

1999(平成11)年32号では、「子どもの遊びを育む」と題した特集を掲載し、オープンしたばかりのビッグバンの魅力を伝えました。